

全国学力テスト 中3数学 高水準維持

文部科学省が二十九日に公表した本年度の全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)の結果で、県内では、低迷していた小学六年・国語に改善がみられた。中学三年・数学は、全国の平均正答率に比べて高い水準を維持している。(今村太郎)

県内の公立学校の正答率(%)

【小6】	
国語A	71.4(▲1.5)
国語B	56.0(▲1.8)
算数A	76.0(▲1.6)
算数B	46.4(▲0.8)
【中3】	
国語A	75.5(▲0.1)
国語B	66.4(▲0.1)
数学A	64.9(△2.7)
数学B	46.5(△2.4)
*かつこ内は全国比(ポイント、△はプラス、▲はマイナス)	

配るなどした。地道な取り組みの成果」と話す。中学三年の「数学A」は全国平均より2.7ポイント、「数学B」は2.4ポイント高い。担当者は「数学の個別指導が盛んで、高い水準を保持している」と分析する。

昨年、小学六年の国語の基礎知識を測る「国語A」が全国最下位、応用力を試す「国語B」がの、ともに四十位と上で、全国的に低かった。今がった。

県教委の担当者は「学校別の結果公表が条件付きで可能になったが、県は「無駄に競争をおおることにつながる」として、本年度も公表しない。

県内小6国語「改善」

競争ではなく、弱点克服の材料



松原信継教授

愛知教育大・松原信継教授(教師教育学)

学力テストは、「過去問」をやるなど対策を進めれば、すぐ結果は上が

る。実際、上位の都道府県は、熱心に過去問対策をやっている。

愛知でも一部の小学校で、過去問対策をやっている。今回、小学校の国語で改善がみられたのは無関係ではないだろう。

県教委は学力テストの結果を分析し、弱点の国

語の指導例をまとめたレジュメを教員に配っている。この程度なら、弱点を知り、授業の向上を目指すという学力テストの趣旨に合っている。これ以上、踏み込んだ関与や指導につながるよう監視が必要になろう。

愛知には、尾張地方を

中心とした小学校で、読書を通じて国語力を高める「朝読」が根付くなど、じっくり、のびのびと長所を育てる風土がある。それがドリル学習などに切り替わることがあってはならない。

保護者も、学力テストは競争ではなく、弱点克服や授業改善のための材料と冷静に受け止めるべきだ。